

ニュージーランドに家族ができた!



羊の毛刈りを体験したシーブワールドにて

今年で3回目となるニュージーランドへの青少年派遣事業が8月2日から9日までの8日間行われました。町内の中学生9人がオークランド市を訪れ、一般家庭へのホームステイ、学校の授業への参加、農場研修などを通して現地の生活を体験し、交流を深めました。参加者たちの感想を紹介します。(敬称略)



団長
笠松中学校教諭
福安 和行

子どもたちは今回の研修の一番の思い出として、一時間の乗馬体験と同様に、ホームステイでの交流を特に印象深く感じている。当然のことながら生徒は朝から英語の授業で家に帰ってからでも英語のある生活。現地の食べ物や文化に順応しようと精一杯の英語力で努力した。ホストファミリーは、普段ニュージーランドの家庭では高価すぎる米や魚などの料理でもてなしてくださったり、生徒がホームシックにかからないように郊外の施設に連れて行ってくださるなど我が子のように気を遣っていただいた。お互いを理解し合おうとする温かい交流があったからこそ、最終日ホストファミリーとお別れでは、互いに抱きあって涙を流しながら別れを惜しむ姿も見られた。今回の研修で異文化の中でもたくましく生活していく生徒たちの素晴らしさを感じた。研修に参加した九名にとってかけがえない経験になったと言える。研修に関わってくださった多くのかたがたに感謝。



笠松中学校 1年生
高野 菜
(西金池町)

ホームステイでは、言葉が通じないので心配だったんだけど、プランチャをつけて親切に、優しく接してくれて、楽しく生活ができました。四日間の間に忘れられない思い出をつくってくれました。「ニュージーランドで、ここはあなたの家だよ」と言ってくれて、本当に、またニュージーランドへ行きたいと思いました。



パキラビーチホースでの乗馬体験



笠松中学校 2年生
赤塚 悠
(東陽町)

とにかく楽しかったです。ホームステイでは、ニュージーランドの人の習慣や文化がわかったし、ニュージーランドの学校で実際に授業を受けるなどの体験もしました。オークランド市内の見学では初めて英語で買い物をしたし、当たり前だけど、店の中や外がすべて英語だったのでとても良い体験ができたと思います。またこのような体験ができれば幸いです。



日本語学級の生徒の前で「世界に一つだけの花」と「この星に生まれて」の2曲の歌を披露